

インドを中継基地にすれば 中東やアフリカへも出られる

モ

ディ政権が誕生して240日がたった。グジャラト州では、モディ氏が州首相時代に始めた「政府主催の投資誘致イベント」が2015年1月11日から13日まで開かれた。インド首相に就任後、初めての凱旋となった晴れの舞台には、過去最多の8カ国が「パートナー国家」として協賛した。その内訳は、オーストラリア、カナダ、日本、オランダ、シンガポール、南アフリカ共和国、英国、米国である。

約13年間務めたグジャラト州の首相時代には、国内外の企業を同州に誘致するなどの経済発展を重視した政策を打ち出し、年平均で10%以上の成長をもたらした。そして今は、かつての「グジャラト・モデル」を国レベルに適用すべく動きだしている。インドには、29の州政府と七つの連邦直轄領があるが、グジャラト州には国内にある工場の10%が集中し、国全体のGDP(国内総生産)の7.5%を稼ぎ出す。

製造業で雇用の創出を狙う

モディ首相が欲しがらる25業種



*インド政府のポータルサイト「Make in India」より抜粋(順不同)

グジャラト州のデリー代表を務めるパール・ラール事務所長は、こう語る。「私たちはさらなる発展のために、さまざまな技術が必要としている。次世代のことを考えれば、海水の淡水化技術などに大きな関心を持っている」。現在、モディ首相は「メイク・イン・インド」(インドでつくろう)というキャンペーンを開始して、製造業の誘致に乗り出した。特に振興を図りたい業種については、政府の専用ポータルサイトで公表している(左上図)。

また、「国家製造業政策」では、GDPに占める製造業の割合を現在の15%から25%に引き上げ、1億人の雇用を創出することを掲げている。製造業で投資を考える企業

インドは日本の3倍以上

実質GDP成長率の推移



▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)

▲10 ▲5 0 5 10 15 (%)



インドの大都市には、スラム化した地区が点在する。主に不法占拠の土地だが、屋根の上には衛星放送用のアンテナが載る。地元の政治家が「票欲しさ」にばらまいたものだ

東南アジアと異なり 日本人プレミアムは インドで通用しない

では、実際のところインドでのビジネスはどうなのか。通算で30年以上、インド関連のビジネスに従事してきた東洋エン지니어リングの大曾根恒常務執行役員は、自らの持論を述べる。「日本企業、とりわけメーカーの人は、日本のやり方」をそのまま現地に持ち込もうとしがち。品質を考えれば、もともと多くの日本人を投入すべきとなるが、それでは

海外に工場を移しただけになる。むしろ、日本人は必要最低限の数の抑え、現地人に動いてもらうための環境を整備した方がよい。なぜなら、インドは、東南アジア諸国連合(ASEAN)より遠い、南アジア地域協力連合(SAARC)に属す国だからだ。アフガニスタン、パキスタン、インド、ネパール、ブータン、バングラデシュ、スリランカ、モルディブで構成される地域は、日本とは価値観や倫理観がまったく異なる。一例を挙げると、ODA(政府開発援助)がある。東南アジアでは、日本のやり方がほぼ通用するが、インドは違う。彼らはODAの使い道に関して、あれやこれやと注文を付ける。プライドが高いインド人の考え方の根っこには、援助してもらっているのではない。あくまで対等という認識がある。従って、日本人だからといってチャホヤされることはない。

この点に関して、インドと日本の「橋渡し」をしているサン・アンド・サンズ・アドバイザーズを設立したインド人のサンジーヴ・スィンハ社長は、こう解説する。

Interview

今の日本にないものが インドには、全てある

渡辺章博 ● GCAサヴィアン社長



今から10年前。2004年にM&Aに特化した独立系アドバイザー会社を立ち上げたときから、アジアという単位で見れば、将来的に大きな成長が期待できるのは、中国ではなく、インドだと考えていた。

現在、世界の8拠点でアドバイザー業務を手掛けているが、09年にアジアで最初に立ち上げたのはムンバイ事務所だ。13年には、民間では最大のICICI銀行グループ傘下のICICI証券と戦略的業務提携を結んだ。両社ががっちり組んだことで、互いが持つM&Aの専門知識や蓄積してきたノウハウ、現地の

「例えば、第2次世界大戦中に、日本の植民地だった東南アジアの一部では、日本に対する「尊敬」や「憧れ」の念が強い。それは、一般的なインド人が宗主国だった英国に対して抱く感情と同じだといえる。だが、インド人は日本に「尊敬」の気持ちは持っている。憧れ」までは抱いていない」

複数の日本人駐在員に、インド特有の「難しさ」を聞くと、次のようなネガティブな意見が返ってくる。「議論好きのインド人は早口の英語でまくし立てて要求ばかりしてくる」「彼らにはギブ&テイクという発想はない」「自己の利益に敏感で、厚顔無恥」「奇妙な天理屈で、言い訳をする」「官僚から賄

